



一宮町長
馬淵 昌也

今年の夏は、新型コロナウイルス感染症のため、花火大会はじめ、各種の行事が中止になりました。海水浴場も、いわゆる「三密」を避けられない恐れがあるため、開設しませんでした。

例年であれば一宮の夏は、海を中心として活気にあふれますが、各種イベントがほとんど行われず、たいへん残念でした。

しかし、私は今夏、海で忘れがたい思い出を二つ手に入れました。

一つ目は、サーフィンに挑戦したことです。7月と8月に、私は2度、サーフィン教室に参加しました。1度目は、一宮海岸でDeep Suitの稲葉康宗さん、玲王さんのお二人にご指導をお願いしました。波は穏やかで、サーフィンには絶好とはいきませんでした。はじめてウェットスーツを身にまとい、サーフボードに身を横たえる経験をしました。2度目は、Navigator Surtboardsの鶴沢清永さんをお願いして、シダトラで長谷川颯汰さんに指導して頂きました。この時は、波が大きく、私には少々きついものがありました。

結果的には、ボードの上立つ手前までしかいけませんでしたが、沖から

ボードに乗って、陸へ向かって滑ってゆく感じは爽快で、また続けて挑戦したいと思いました。稲葉さん、長谷川さんのように、一線で活躍している方に、手ほどきを頂いたのは、大変光栄なことでしたが、今後は更に、他のお店にも伺いし、レッスンをお願いしたいと思います。

二つ目は、地曳網で、スナメリを助けたことです。地曳網は、設備の維持、技術の伝承の必要から、今年も行われませんでした。私が参加した8月9日の網に、スナメリが2匹かかってしまいました。網が沖にある時から、海面に姿を見せていましたが、最終的には逃げられず、網に入って引き上げられてしまいました。そこで、皆で協力して救出作業を行いました。私は、1匹を抱きかかえて網から出してやりました。間近で見るとスナメリは、ねずみ色でかわいらしく、身体はむちむちとしていました。2匹ともうまく逃がすことに成功しましたが、網にかかるとショックで死んでしまうこともあるそうです。この2匹がうまく海へ帰って、無事に暮らしてくれることを祈ります。サーフィンへの挑戦とともに、今年の夏の忘れがたい思い出となりました。